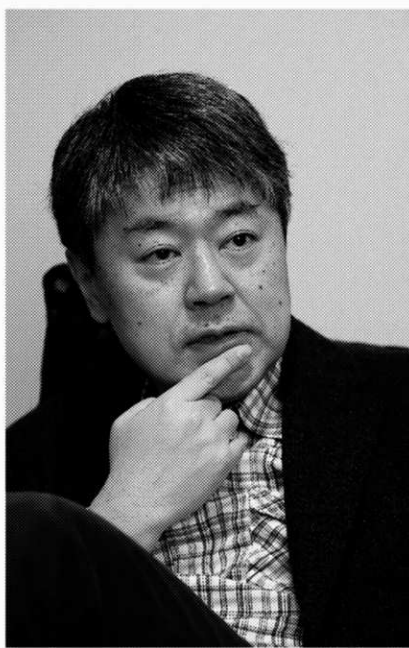


経済のページ



2016年 好循環実現へ
カギを握る賃上げ

首都大学東京大学院社会科学部 協田成教授に聞く

明2016年は、デフレ脱却、経済の好循環実現へ向け正念場の1年となる。経済再生を軌道に乗せるため、賃上げの重要性を繰り返し提唱している首都大学東京大学院社会科学部研究科の協田成教授に見解を聞いた。

企業の「過剰防衛」

内部留保増大し経済停滞

「日本経済の現状をどう見ますか。企業の内部留保(利益剰余金)が増大し続けている。異例の事態だ。本来、家計や資本家が貯蓄し、銀行や証券市場を通じてその資金が企業に融資され、投資に回るということが一般的だ。だが、現在の最大の貯蓄主体は企業になっており、その資金を政府が国債を発行して吸収する」という悪循環に陥っている。通常とは異なる「逆時計回り」のような状況が続いているのである。企業が内部留保を積み増した背景は、きつかけは、1997年の金融危機だ。北海道拓殖銀行が都市銀行として初めて破綻し、山一證券が自主廃業に追い込まれた。企業は当てにならない銀行を見切り、自前で財務基盤の強化に走り出した。健全経営の目安である自己資本比率を引き上げるため、銀行からの借入れを減らし、内部留保を大幅に積み増し、守りを固めることに専念したのだ。法人企業統計によれば、2014年の消費税率8%への引き上げ前後の四半期に、日本企業は10兆円前後を内部留保として新たに積み増し、増税ショックに備えた。消費税率の増税後、四半期ベースで増えた税収は1兆円強。これと比較すると、企業の内部留保積み上げた。消費税率の増税後、四半期ベースで増えた税収は1兆円強。これと比較すると、企業の内部留保積み上げた。



まずは消費の拡大

中核の正規雇用者が焦点

「企業の貯蓄を、経済成長へと振り向けよう」とは何か大事ですか。やはり労働者の賃上げだ。現在の失業率は3%台と極めて低く、完全雇用の状態と言っても過言ではない。今こそ賃上げすべき時だ。企業の貯蓄はまず設備投資に使ってほしいというのが一般的な主張だが、個人消費や輸出が盛り上がる前に設備投資を先延ばしすると、それが不良資産になってしまう。まず恐れがある。統計を分析すると「輸出と製造業の投資」「消費と非製造業の投資」は比例している。消費や輸出が増えなければ投資も増えない。教科書的には、株式配当を増やすことも考えられるが、日本でも株式を持つのは家計よりも金融機関の方が圧倒的に多い。輸出は、にわかに増やしにくい。残るのは、賃上げによる消費の拡大だ。消費を増やし投資を増やす内需拡大のルートだ。「急がば回れ」で、まず消費を伸ばし、投資増加につなげることが大事だ。非正規の大半が女性や中高年労働者には非常に幅が狭い。賃上げは、ここを重点を当てるべきです。中核的な労働者の賃上げが重要になる。賃金の低い非正規労働者の増加を問題視する向きもあるが、その

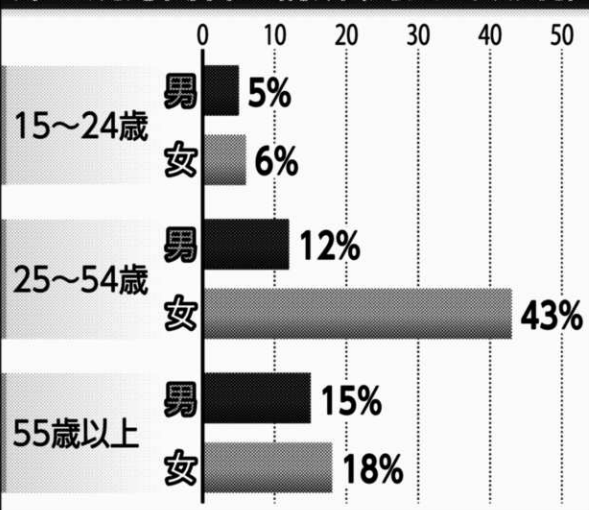
重要な政労使会議

「異例」の事態への対応手段

「来年度の春闘に向けた動きも始まっています。14、15両年の春闘では、政府が政労使会議を開催して、財界団体に賃上げ要請を行い、一定の成果を挙げたことを評価している。自

わきた・しげる 1961年生まれ。東京大学経済学部。東京大学助手を経て、現職。経済学博士。専門はマクロ経済学・労働経済学。

非正規労働者の構成(男女・年齢別)



内訳を見ると、55歳以上の中高年と主婦パートの多い25~55歳女性が8割近くを占めている。これはいわゆる格差問題として、賃上げとは別立てで考えるべき

「非正規労働者の人数の比率が全体の4割近くを占める」とも、時給は半額で労働時間も短く、総賃金に占める比率は1割強程度しかない。非正規への配慮は必要だが、実態に即して中核的な正規雇用者の賃上げを軸に考えるべきだ。賃上げを実現するための方策として何が考えられますか。企業が、内部留保を賃上げに振り向けるきっかけが必要だ。内部留保と言っても、機械などの資産をはじめ、いろいろな内部留保があるが、積み増しているのは預貯金が多い。そうした現状を踏まえると、具体的な施策としては、企業保有の預貯金に課税することも考えられる。貯蓄供給主体である企業に「ムチ」を与えることは事実上のマナー金利の意味を持つ。

業別労働組合で構成する金労協が、賃金改善の要求水準を15年春闘の半分に当たる月例賃金の1%程度と決めたことと関係が深い。日本生産性本部発表の2015年の時間当たり自営労働生産性は1.2%伸びており、それを下回る要求水準で労働組合を支持基盤に持つ民主党は、政権交代をめざす立場から政権との対立軸をつくらうとしているのかもしれないが、賃上げを政治の具にしないではない。そうした場合、公明党には賃上げに向けた各党間の「接着力」としての役割を果たしてほしい。

梅もどき

諸田玲子 深井国画

孤高の道 十一

萩の花が風にゆれている。本多邸の庭にも秋の気配がちらほら。大坂城に在る従姉、宮内卿局に季節の便りをしたためようとした手を止めて、お梅は控えの間から聞こえてくる君尾と千鳥のおしゃべりに耳を澄ませた。「なにもあそこまでしなくても...恐ろしい夢見がわるうございませぬ」千鳥が声をふるわせている。七月九日、大久保長安の男子七人と主だった家臣や同朋が、各々の配所で自刃して果てた。しかも家康は、すでに埋葬されていた長安の遺体を掘り起こし、安倍川の河原で磔に処すよう命じた。その光景は酸鼻をさわるものだったという。「磔刑のことなら、あれだけ多くのお身内が命を絶たれたのです。張本人の大悪党が無傷では済みませんよ」「でも死人では痛うも痛うもありません」「あれは、城下の者たちに大罪人はだれか、知らせるための見せしめじゃ」「耶穌の神様も磔刑になったそうですよ。三日月によみがえったとやう」「ッ。人に聞かれたらなと。異教の話など口にしてはなりません」

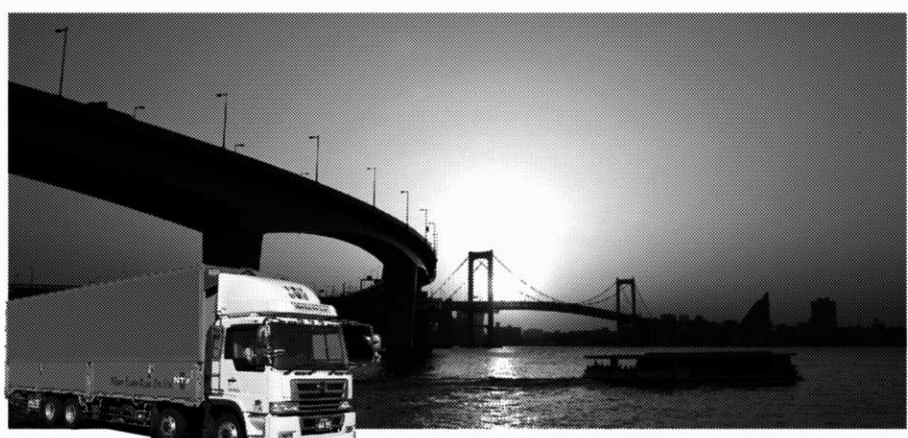


君尾に叱られて千鳥は身をちぢめているのか。会話は途切れた。お梅は、筆を宙に止めたまま、じっとかながこんでいた。

一族郎党を根絶やしにするのは、謀反を企てた罪人に対する処罰である。かつて豊臣家でも、太閤秀吉が甥の関白秀次の謀反をうつが、身内や家臣ともも成敗しては、まさに今、文をしたためようとしている宮内卿局もその犠牲者だ。夫と嫡男を自刃に追いこまれ、自らも乳飲み子を抱えて逃げまどいた。

長安のおもてむきの罪状は、金銀の横領や賄賂、異人やキリシタンの密書のやりとりだとされているが、もちろん、謀反が疑われたのはまちがいない。息子たちの婚姻を利用して有力大名と縁をむすんだのが警戒を招いたのだ。大坂には豊臣家の後継者、秀頼がいた。上方では絶大な人気を誇っているそうだから、危うき身はいち早く摘むべしと家康は断を下したのだ。弥八郎は悩んでいた。が、悩んだところで、夫にながでしようか。

人と未来を結ぶ総合物流サービス

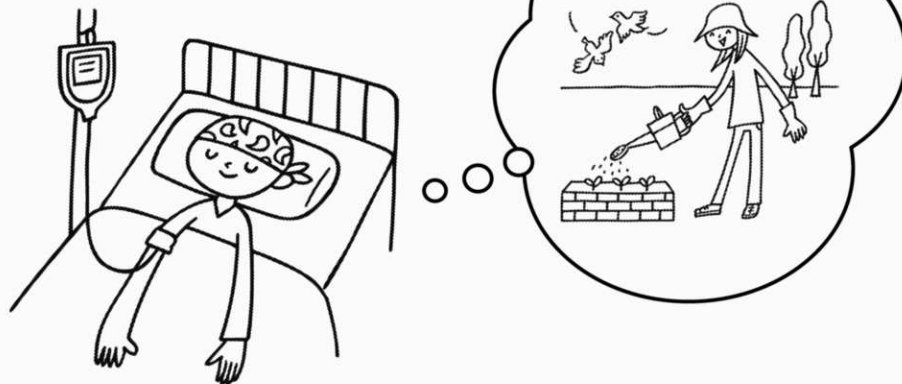


NTY 日本図書輸送株式会社

0120-210-840 http://www.nty.co.jp/

『わたしが元気だと、家族も友達も、なんだかみんな元気だね。』

1人の患者さんの命を救うだけじゃない。そのまわりにいるたくさんの人と一緒に救うことができる骨髄移植。1人でも多くの患者さんのために、1人でも多くのドナー登録者が必要です。骨髄バンク・ドナー登録にご協力ください。



骨髄バンク・ドナー登録のしおり「チャンス」のご請求は、フリーダイヤル 0120-445-445 ホームページ www.jmdp.or.jp www.donorsnet.jp

ドナー登録は、腕からの約2mlの採血、約15分で済みます。ドナー登録は18歳~54歳の健康な方をお願いしています。骨髄提供できる年齢は20歳から55歳までです。〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-19 廣瀬第2ビル7F 日本骨髄バンク